



Better Health, Brighter Future

会社名 武田薬品工業株式会社
代表者 代表取締役社長 長谷川閑史
(コード番号 4502 東証第1部)
報道関係問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部
Tel 03-3278-2037

News Release

2014年5月8日

平成26年3月期の連結業績および平成27年3月期の連結業績予想について

当社は、本日、平成26年3月期の連結業績および平成27年3月期の連結業績予想を公表しましたのでお知らせします。なお、当社は、平成26年3月期より、従来の日本基準に替えて国際会計基準(IFRS)を適用しており、「日本基準」と明記している箇所を除き、すべての財務情報をIFRSベースで記載しています。また、前期の財務情報につきましてもIFRSに準拠して開示しています。

国際会計基準(IFRS)

	平成25年3月期 連結業績 (億円)	平成26年3月期 連結業績 (億円)	対前期増減	平成27年3月期 連結業績予想 ^{※1} (億円)
売上収益	15,570	16,917	+1,347 (+8.6%)	17,250
営業利益	650	1,393	+743 (+114.3%)	1,500
当期利益 (親会社の所有者帰属分)	1,486	1,067	△419 (△28.2%)	850
EPS(円)	188.21	135.10	△53.11 (△28.2%)	107.67
Core Earnings ^{※2}	2,855	3,142	+287 (+10.1%)	2,800

^{※1} 為替レートは、1米ドル=100円、1ユーロ=140円を前提としています。

^{※2} 営業利益から、企業買収に係る会計処理の影響や無形資産の償却費および減損などの一時的要因を控除して算定しています。

(ご参考)日本基準

	平成25年3月期 連結業績 (億円)	平成26年3月期 連結業績 (億円)	対前期増減
売上高	15,573	16,919	+1,347 (+8.6%)
営業利益	1,225	1,557	+332 (+27.1%)
経常利益	1,132	1,307	+175 (+15.5%)
当期純利益	1,312	903	△409 (△31.2%)
EPS(円)	166.25	114.44	△51.81 (△31.2%)

当社は、進出地域の拡大や製品の多様化など、ビジネスモデルが急激に変化している状況において、タケダが目指す 2020 年の姿を示した「ビジョン 2020」を昨春策定しました。その実現に向けてスタートした 2013 年度(平成 26 年3月期)を起点とする中期成長戦略では、「Globalization(グローバル化の推進)」「Diversity(多様性の追求)」「Innovation(革新への挑戦)」に基づく基本戦略を実行し、グローバル製薬企業に相応しい強靱で効率的なオペレーティングモデルへの変革を実現することで、持続的な成長をより確かなものとしてまいります。

本中期成長戦略の初年度である 2013 年度は、売上収益が前年度から 1,347 億円(8.6%)増収の 16,917 億円となりました(Like-for-like^(注)ベースの増減率は 5.1%の増収)。日本では高血圧症治療剤「アジルバ」、米国では多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」、逆流性食道炎治療剤「デクスラント」などが伸長し、欧州では悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が極めて順調に売上を伸ばしました。また、消化性潰瘍治療剤「パントプラゾール」などの伸長により新興国事業が着実に拡大しました。これらに加え、為替の円安影響もあり、米国の 2 型糖尿病治療剤「アクトス」の後発品参入による大幅な減収影響を吸収し、売上収益は対前年度で 1,000 億円を超える増収となりました。

コストについては、事業のあらゆる面において競争力のある企業への変革を追求した全社的な取り組みである Project Summit の推進により、約 340 億円のコスト削減を実現するとともに、持続的な成長につながる必要な投資を継続的に実施しました。為替の円安影響が大きく、販売費及び一般管理費と研究開発費は増加しましたが(Like-for-like ベースの増減率は、それぞれ 8.1%と 4.2%の減少)、無形資産の減損損失の発生額が減少したこともあり、営業利益は、前年度から 743 億円(114.3%)増益の 1,393 億円となりました。

2014 年度は、当社は引き続き、革新的な新薬の価値最大化と開発後期パイプラインの早期承認取得に向けた活動に注力してまいります。グローバル製品である 2 型糖尿病治療剤「ネシーナ」をはじめ、大うつ病治療剤「ブリンテリックス」など新薬の価値最大化に取り組み、今後承認が見込まれるクローン病・潰瘍性大腸炎治療薬や肥満症治療薬などの速やかな立ち上げと市場浸透の実現に向け、戦略的な投資を積極的に行ってまいります。また、研究開発生産性の一層の向上に取り組み、世界中の人々のアンメットメディカルニーズに応える革新的な新薬の創出に挑戦し続けます。Chief Executive Officer (CEO) と Chief Operating Officer (COO) がリードする新たな体制のもと、当社は、Project Summit をはじめとする、これまでの戦略のさらなる強化と、その展開の加速化に取り組んでまいります。なお、2014 年度の売上収益は前年度から増収の 17,250 億円、営業利益は増益の 1,500 億円を見込んでいます。

「ビジョン 2020」や、当社が目指す持続的成長目標など本中期成長戦略の詳細については、「平成 26 年3月期 決算短信[IFRS](連結)」の「3. 経営方針」(21 ページから 24 ページ)をご覧ください。決算短信を含む関連資料は当社ホームページに掲載しております。

<http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>

以上

^(注) Like-for-like: 経常的なビジネスパフォーマンスを見る観点から、為替影響および M&A 関連費用や事業の売却損益等の除外項目を控除して算定しています。